

那珂川町図書館

オススメの1冊

『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン／さく ケビン・ホークス／え 福本友美子／やく
岩崎書店【Eホク】

図書館はたくさん本があって、自由に読んだり、借りたり、調べものをしたりするところです。そして、「大声を出さない」、「走らない」、「食べ物を食べたり飲んだりしてはいけない」など、図書館を気持ちよく利用してもらうために守るべき「きまり」がいくつかあります。ではそこへ、ライオンがやってきたら…？

このお話は「きまり」には少しうるさい図書館員のマクビーさんと、図書館長のメリーウェザーさんのいる図書館にライオンがやってくることから始まります。

ライオンは図書館の中をゆっくり歩きまわり、絵本の部屋で気持ちよさそうに寝ていますが、図書館のきまりにはライオンがきた時のことなど何も書いてありません。やがて、おはなし会が始まります。もちろん「ライオンがおはなしをきいてはいけない」というきまりはありません。ライオンはじっとお話を聞きます。おはなし会が終わったと小さな女の子が教えてくれた時、大きな大きな声でほえてしまいます。ライオンはメリーウェザーさんに「しずかにできないなら、としょかんからでていっていただきます。それがきまりですから！」と言われますが、静かにすると約束し、それから毎日図書館のおはなし会に通うようになります。ライオンは図書館の掃除やメリーウェザーさんの仕事の手伝いもし、図書館にくる人たちとも仲良くなっていきます。ところがある日、事件が起こり、ライオンはきまりを破って館内を走り、今までで一番の大声でほえてしまいます。きまりを破ってしまったライオンはどうなるのでしょうか？

図書館の中で、きまりを守りながら楽しそうに過ごすライオンの絵には図書館やおはなしの時間が好きな様子が表れています。

「きまり」を守ることは大切です。でも、時には「きまり」を守れないこともあるでしょう。このお話の中には、「きまり」という言葉が何度も出てきます。「きまり」ってなんだろう、何のためにあるのだろうと考えられます。「きまり」とは相手を思いやる気持ちの表れではないかと私は思います。厳しいことを言っているわけではない、相手のことを考え行動するために必要なことが「きまり」ではないでしょうか？

お子さんと一緒に『としょかんライオン』を読んで図書館に行くのも良いかと思えます。那珂川町図書館にはライオンはいませんが、入り口で二匹の大きなゴリラのぬいぐるみが皆さんの来館をお待ちしています。また、4・5月にはこどもの読書週間にあわせて、子ども向けワークショップやぬいぐるみおとまり会などのイベントを行います。春は出会いの季節でもあります。図書館へ足を運ばれてみませんか？素敵な本との出会いがあるかもしれませんよ。

那珂川町図書館（柚子）